の日本社會に於ては、吾人はいさゝか其兆候あるを認めざるを得ず一言にして云はゞ、質朴の風は地を拂ふて去られんとするを認む、吾人は衣食住の改良進歩を認むると同時に、年少諸君の地位不相應の生活を認めざるを得ず、年少諸君にして、美服を着け、シガーを燻らし、居室を飾り、食事に多言するものは何事ぞ、服は寒暑を陵ぎ、疾病を防げは足る、居室の如きも風雨寒暑疾病等の恐なくんばよし、食事は出來得る丈、滋養質の物を得ざる可からずといへども又身分相應の食事あらざるべからず、吾人豈に他を云はんや、年少諸君は父兄、親屬、知己の補助の下に立ち、公平なる學理の奥を究

むるに當り、何を好んでか淺薄野卑なる俗風に媚びることをかなす諸君の神經過敏質も餘りに甚しきにわらずや、口には戰勝國、世界的日本の少年と唱へ乍ら、行ひは平凡なる俗社會と異ならざるは何事ぞ、英國の勇將ウエリントンが、世界の英雄と稱せらるゝナポレオンに打勝て後、イートンの中學校に至り、少年學生か勇ましく、遊戯するを見、嗟歎して云ひし言に曰く、嗚呼ウオタールーの戰勝は實に茲にありと信ずるものなり。

習慣は第二の天性とかや、年少諸君にして、華美の習慣に染みなば遂に豪骨に入り、其成人となるの後は、自から我身を保持すること

能はざるに至るや必せり、諸君豈戒心せずして可ならんや、吾人は單に費用の點よりかく立論するものに非ず、純潔にして然かも活氣ある精神が常に質朴なる体中にあるを知るものなり、佛國は稱して世界の華美國と云ふ然かも兒童の衣服は驚く可き粗野なるものなりといふ、人其故を問へば其父兄答へて曰、美服なれば兒童の運動不活潑なりと豈至言ならずや、健康は人の欲する處、衆の好む處吾人が事をなし、業を遂ぐるも、健康の力によること多し、然るに世の輕薄者流は才子多病なりなど唱へ、自から招きし疾病を以て恥辱と せざるのみならず、寧ろ、それを以て遁辭とせんとするは如何に謬

み甲斐なきものならずや、彼等とて健康の必要なることを知らざるに非ずといへども、彼等の質朴ならざるの風は、遂に彼等をして、不健康を來たし、かゝる遁辭を出ださしむるに至る、其苦心知るべきのみ、吾人は諸君に勸むるに精神の健全、躰力の充滿を以てせんとす、然して、其之れか志を果すの手段は、千種万別一々示述するに及ばといへども、質朴の風は慥かに、外面的より内心的の改造を來すものなるを信ずるが故に、此章をば設けたるなり、諸君にして幸に吾人の希望を容れ、自から改良して以て人に及ぼし、以て世界各國の木鐸となるに至れば、吾人は快よく此章を除去せんと欲す

質朴の風を簡言して諸君に訴ふること如此。

青年要訓 活きた修養（終）

大正八年七月十五日印刷
大正八年七月廿日發行

定價 金參拾錢

著者 桐蔭居士 大阪府東成郡鶴橋町字木野四拾番
發行者 植田種藏 大阪市西區阿波座中通二丁目四番地
印刷者 荒木佐兵衛

大阪市高津局區内鶴橋町
發行所 植田書店 振替大阪五五四五番

不許複製

N 1
203

終